

Title	寄贈交換圖書雑誌目録
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1929
Jtitle	史学 Vol.8, No.1 (1929. 3) ,p.165- 166
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19290300-0165">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19290300-0165</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

この天臺記及び前記政子の寄進狀、雲居の遺傷は、今回始めて中央の史界に紹介せらるゝものにして、今次の旅行の一收穫たるを失はず。

次て新富山より、松島灣の風光を大觀し、下りて、五大堂及び觀瀾亭に至る。

五大堂には、五大明王の像を安置し、内堂は桓武天皇の延暦二十年、坂上田村麿の建立と傳へ、外堂は、慶長五年仙臺藩祖伊藤政宗の建立せるものといふ。

觀瀾亭は、豊太閤の桃山の茶亭を移せるものにして、松島の諸島を一望の中に聚め、芭蕉翁ならずとも、「嗚呼松島や松島や」と感歎しうる佳處なり。

斯て雄島に歸化僧寧一山の作れる、頼賢の碑等を見て、午後一時半松島を發し、本鹽釜驛に下車、國幣神社鹽釜神社に參拜す。

境内には、「文治神燈」竝に「日時計」あり、前者は文治三年、藤原秀衡の三男、和泉三郎忠衡の寄進せるものにして、開扉と蓋とは後世の修補にかゝる。後者は寛政四年、禰宜藤塚式部が獻納せるものにして、林子平の考案にかゝれるものなり。

同二時五十分本鹽釜驛發、多賀城驛下車、田間丘陵を右曲左折し行くこと二十五町にして多賀城寺跡に至る。講堂、食堂、東塔等の礎石を留るのみ。それより野田玉川を経て、多賀城址に到り有名なる多賀城碑を見る。

この碑は昔、多賀城門に立て、四境の遠近を示したるものなり。當時蠻夷の來り侵すや京師に報じ、四隣に告げ、或は兵を募り軍を出す急遽匆卒の際、此碑に依り遠近を量り、日子を定め緩急臨

機の計を施したるものといふ。次て暮色迫る頃、急ぎ多賀城の牙城の跡等を踏査して岩切驛に急ぎ、五時五十五分同驛を發し、六時十分仙臺に歸り、解散す。

斯くして、三日に亙る見學旅行は、大なる收穫を得て、無事に有益に終りを告げぬ。

最後に、この行諸所に於て、見學の便宜を與へられし諸氏に對し、茲に謹んで深謝する次第なり。

(宇宿 捷)

### 寄贈交換圖書雜誌目錄

- |                            |             |
|----------------------------|-------------|
| 阿波に隠れたる建武の忠臣 岩松經家          | 島田 麻壽吉氏     |
| ロックの哲學と教育思潮                | 同 文 社       |
| 下野郷土史                      | 同 野 史 談 會   |
| 矢板町誌                       | 同 會         |
| 稻米秀山遺稿                     | 池田 史 談 會    |
| 吉田新田古圖文書 横濱郷土史料            | 吉田 勘 兵 衛 氏  |
| 蒙古の哲人 耶律楚材 安岡正篤著(人物研究叢刊第六) | 金 雞 學 院     |
| 支那政教夜話上 赤池濃著(金雞文叢第八)       | 同 院         |
| 日英交通史料一                    | 武 藤 長 藏 氏   |
| 備後史談四の一、二、五の一、二。           | 備 後 郷 土 史 會 |
| 朝鮮佛教五六、五七、五八。              | 朝 鮮 佛 教 社   |

江戸文學研究一、四、六。

江戸文學研究會

風俗研究一〇三、一〇四、一〇五、一〇六。

風俗研究會

藝文一九の一、二。二〇の一、二、三。

京都文學會

伊豫史談五五。

伊豫史談會

人類學雜誌四三の一、二。四四の一、一の附録、二、三。

東京人類學會

神社協會雜誌二七の一、二。二八の一、二、三。

神社協會

上毛及上毛人一四一、一四二、一四三。

上毛郷土史研究會

觀想五五、五六、五七、五八。

東洋大學圖書館

考古學雜誌一九の一、二、三。

考古學會

國學院雜誌三五の一、二、三。

國學院大學

國民經濟雜誌四六の一、二、三。

神戸高等商業學校商業研究所

國體科學三六、三七、三八。

國體科學聯盟本部

國史と國文四七、四八、四九。

立命館大學出版部

歴史教育三の八、九、一〇、一一。

歴史教育研究會

歴史と地理二三の二、三。

史學地理學同攻會

歴史地理五三の一、二。

日本歴史地理學會

龍谷大學論叢二八三、二八四。

龍谷大學論叢社

史苑一の四、五。

立教大學史學會

史蹟名勝天然紀念物四の二、三。

史蹟名勝天然紀念物保存會

史學雜誌四〇の一、二、三。

史學會

紙魚二六。

紙魚社

下野史談六の一。

下野史談會

民族四の二。

民族發行所

東洋文化五六。

東洋文化學會

東洋學報一七の三。

東洋協會調查部

東洋考古學史五の一。

東洋考古學會

東北文化研究一の五。

東北帝國大學法文學部  
奥羽史料調查部

土佐史談二五。

土佐史談會

旅と傳説二の一、二、三。

三元社

筑紫史談四五。

筑紫史談會

刀劍研究五の一、二、三。

南人社

密教研究三二。

高野山大學密教研究會

横手郷土史資料一四。

秋田縣横手郷土史編纂會

禪學研究八。

臨濟宗大學禪研究會

會 告

一金四圓也 昭和三年度分會費

右會費未拂込の方には近日中集金郵便差上可申候間御不在にても御支拂被下様御願申上候也

昭和四年四月

三田史學會